

学校名 霧島市立国分小学校

項目	活動内容等
1 推薦機関が受賞候補校等を推薦する理由	<p>霧島市立国分小学校では、総合的な学習の時間において環境について学ぶ時間を設定している。</p> <p>5年生では、SDGs の一つ「海の豊かさを守ろう」に繋がる学習を展開している。「海とわたしたち」をテーマに、海洋環境についての課題を発見し、年間を通して課題解決に取り組み、調べ上げたことをまとめ、地域へ情報発信している。</p> <p>これらの学習を通して、子供一人一人が自分と環境とのつながりに気付き、行動に移していくとともに、地域の様々な人々と関わり合い、協力し合いながら、地域全体の環境保全に対する意識を高められるよう働きかけている。</p>
2 受賞候補校等の活動状況等	<p>令和元年度の教育課程編成において、教育課程にSDGs の視点を位置付けた。また、「探究」の視点を重視し、総合的な学習の時間の活動内容の抜本的な見直しを行った。</p> <p>5年生は、これまで広く「環境」をテーマに活動していたが、校区に海のない学校だからこそ、「海の豊かさ」に目を向ける意義があると考える。また、子供たちには、現在の海の状況や地球環境を知り、未来について思考していくことは決して他人事ではなく、身近な問題として主体的に海洋環境の課題と向き合ってほしいという願いから、テーマを「海とわたしたち」に設定した。</p> <p>(開始年月：令和2年4月)</p>
(1) 活動の動機・頻度	
① 活動を始めた動機及び開始年月	
② 活動の愛称名があれば記入して下さい	海とわたしたち
③ 月間又は年間活動回数	<p>総合的な学習の時間 年間 51 時間</p> <p>(学校での設定時間以外でも、休日や昼休み時間などにも各探究グループで活動しこともあった。)</p>

項目	活動内容等
④ 活動のエリア	(令和6年度) ・ 下井海岸：ごみ調査、清掃活動 ・ 校区内：清掃活動
⑤ 活動1回当たりの平均参加者数	(令和6年度) 5年生児童 120人
⑥ 活動1回当たりの平均時間	3時間
⑦ 収集物の処理	現地で収集したものを学校に持ち帰り種類ごとに分け、記録・分析した。その後、分別し処分した。
(2) 活動の独創性 活動の特徴	<p>大テーマである「海とわたしたち」を基に、子供たちは、7月に干潟体験・清掃活動の共通体験を通し、そこから生まれた疑問や気付きから、学級ごとに探究していくテーマについて同じ内容のメンバーで班を構成し、思いや願いを共感的に交流し、プロジェクトを立ち上げる。(例：下井海岸の環境を守ろうプロジェクト、海に感謝プロジェクト、国分っ子環境プロジェクト等)</p> <p>子供たちは、課題解決に向けて予想を立てるとともに、インターネットやパンフレット、書籍等を活用するなどして情報を集めた。また、環境保全について分からぬことを地域の方々や食の専門家である栄養教諭等に実際に尋ね、解決するようにした。集めた情報を基に話し合ったり、予想との違いについて検討したりしながら、さらに追究したいことを見付けていった。</p> <p>11月には、2回目の海岸清掃を行い、これまで調べ学習をしてきた成果をさらに高めるようにし、自分たちができることは何かを探究するようにした。</p> <p>2月には、1～3年生を対象に昼休みの時間にグループ単位で事前発表会を行った。大型テレビで活動の様子の写真を見せたり、クイズを出したり、流木などの実物を提示したりした。参加した子供たちは、海の環境について興味をもって聞いたり体験したりすることができた。授業参観の時には、発表会として保護者に向けてプレゼンの機会を設けた。各グループがそれぞれ大型テレビで説明したり、実物を提示したりして発表を行った。その際、保護者の方々から子供たちの発表の内容や子供たちの説明について、多くの感想や意見をいただいた。</p> <p>まとめでは、年間を通して調べまとめてきたことをリーフレットにし、3月に地域の方々への配布や公共施設に置かせていただき、地域に情報を発信した。地域の方々からも、海の環境に取り組んでいる活動のすばらしさを褒めていただいた。</p>

項目	活動内容等
(3) 地域への貢献度 ① 地域の環境美化への貢献 ② 地域住民との協力活動 ③児童・生徒の活動に対する地域住民の反応	<ul style="list-style-type: none"> 朝の活動等に学校周辺の清掃活動を行い、身の周りの環境美化についての意識を育み、地域の環境を整備することにつながった。 霧島市にある海岸清掃を年2回行うことで、自分たちの生活と海の関わりに気付くとともに、活動を通して自分たちにできることを協働して取り組めるようにしたことが、海の環境を守ることにつながった。 生活の中で自分たちができるなどをリーフレットにまとめ、自分たちの言葉で発信した。 (「ゴミのポイ捨て禁止」「3Rを実行しよう」等) 1～3年生を対象に昼休みの時間にグループ単位で事前発表会を行い、調べたことをもとにクイズを出すことで、1～3年生の子どもたちも海の環境について興味をもつだけでなく、理解を深めることができた。また、流木などの実物を提示したり、実際に触ったりすることで、海の環境をより身近に感じることができた。 授業参観時に子どもたちの発表を聞いた保護者からは、「子どもたちの海を守る思いや願いが伝わった。」「写真や動画等を使って説明しており、活動の様子が分かりやすかった。」などの感想があった。 地域の方々にリーフレットを配ったり、公共施設に置かせてもらったりしたことでの、子どもたちの思いや願いをより多くの人に発信し、伝えることができた。 学校だよりや国分小ブログに清掃活動や事前発表会、保護者への発表会の様子を掲載したところ、学校評議委員や民生委員の方などから、「環境保全を一生懸命がんばっていてすばらしい取組をしている。」などの意見をいただいた。 学習に協力していただいたところやリーフレットを配布した地域の方々、リーフレットを置かせていただいた公共施設の方から、「地域の環境を自分で守ろうという思いがよく伝わった。」「子どもたちの取組が地域に広がるように、自分たちもできることに取り組みたい。」などの意見をいただいた。そのことが、地域の意識の高まりにつながったと実感した。

項目	活動内容等
(4) 環境教育との関連 ① 環境教育と活動との結びつき	本校の環境教育全体計画にも総合的な学習の時間の本学習活動を位置付け、環境教育との関連付けも行っている。
② 活動開始後の児童・生徒の美化意識の変化	<ul style="list-style-type: none"> 子供たちが、海との関わりを進んで捉えようとしたり、課題を意識しながら清掃活動を行ったりすることができた。 学習終了時の子供たちへのアンケートの結果によると、意識調査で、「節電」や「食べ残しを減らす」「3Rを考えながら生活する」など、SDGsへの意識が高まったことがうかがえた。
③ 当該活動以外の環境教育実践活動	「5・6年生による朝のボランティア活動」 年間を通した5・6年生の日常活動として、正門周辺の清掃活動に取り組んでいる。また、児童会による緑の羽根募金など、環境に対する活動を継続的に取り組んでいる。
(5) 当該活動で他の表彰を受けたことがありますか (受賞年月日と表彰機関名)	なし
(6) 校内外活動のための時間の作り方	<ul style="list-style-type: none"> 清掃活動による校区外での学習時は、バスで移動し3時間の活動を実施した。 歩いて行けるところについては、土曜授業日や平日の午前中を使った。(昼休みや放課後においても子供たちが自主的に探究活動をすることもあった。)
3 その他特記事項	なし

「海とわたしたち」の活動の様子

【下井海岸の清掃作業】



【干潟体験】



【学校周辺の清掃活動】



【探究活動（聞き取り）】



【探究活動（製作）】



【探究活動（作品）】



【事前発表会の様子】



【保護者に向けての発表会の様子】



海洋学習成果を リーフレットに

国分児童



海から集めたごみを分類する児童
=2020年10月、霧島市の国分小学校（同校提供）



専門家も出来栄え絶賛

霧島市の国分小学校は、昨年度の5年生が取り組んだ海洋環境についての学習成果を「海とわたしたち」と題するリーフレットにまとめた。ゴカイやヨコエビといった小さな生き物の役割にも注目。専門家が「目の付け所がすごい」と、舌を巻く出来栄えになった。



国分小学校児童が作った「海とわたしたち」
リーフレット

総合的な学習の時間
で約1年を費やした。
テーマの中心は持続可能な開発目標（SDG

後、四つのクラスごとに
に学習を深めた。国分
・下井海岸のごみを分
類した子どもたちは、
作業中に偶然見つけた

s)の一つ「海の豊かさを守ろう」。
まず姶良市のNPO法人「くすの木自然館」

研究員、浜本美さん
（38）から干潟の生態系
について講義を受けた

月、A4判三つ折りの

用紙に印刷し、関係機

会に届けた。浜本さん

は「海の豊かさをコラ

イヤヨコエビから考案

したこととに驚いた。

由研究に発展していけ

ばうれしい」。鶴田幸子

伸校長は「海の恩恵を

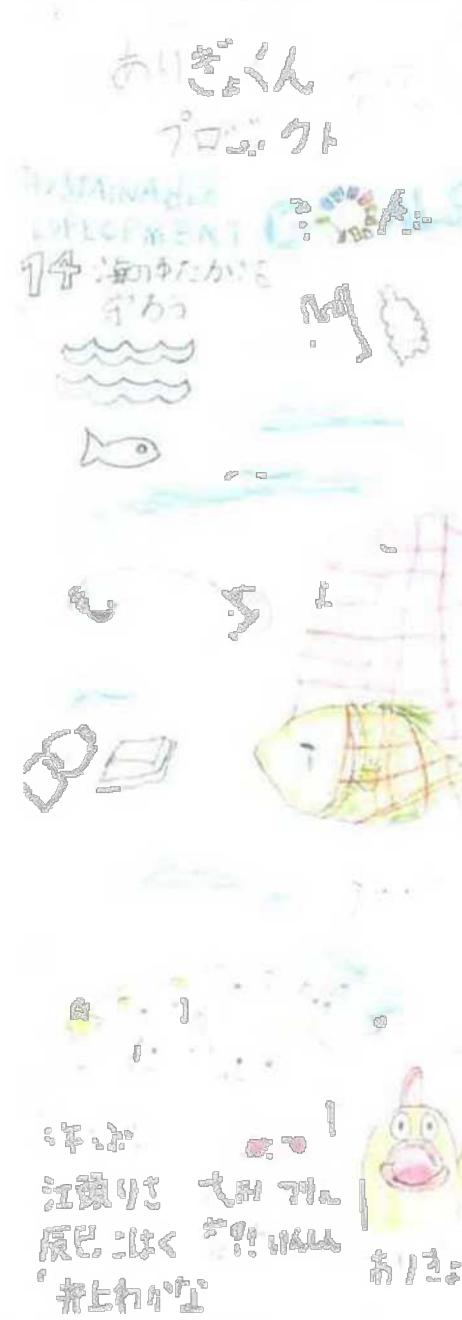
知りつつ課題も多いこ

とを子どもたちは学ん

でくれたのでは」と話

した。門田夫佐子

【リーフレット】



ゴミを海に捨てないで!!
今、海には、ゴミがたくさんある
あります。そこでやめたが
魚はこのようないいなゴミを食べてし
まっている。また、海のゴミを
なくすにはどうすればいいか
について調べてみました。

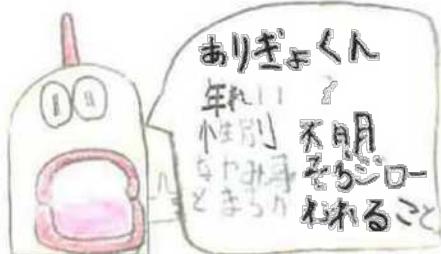
四

- ・一匹の魚が日曜日はラスチックを食べているが、魚がヨコ食へたら、海のヨコ食法

注：毎年異なる表記

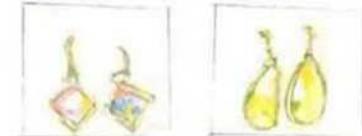


キャラクター



なぜ魚は、コストを貢献しては
つかないのか?
なぜ、毎日生き残りがアーティ
チクを食べなくてはいけないでし
うか。それもわたしゃちから
がんばってアーティクの成功。
大量に海に流れ出でてしま
ているからです。毎日流れ
こむアーティクごみは、年間
500万~1300万トンと七
れてています。アーティクは自
然資源をもとにした資源で
あります。

〈毎のコラボの活用法〉
「毎のプラスをクセ容かして作り
クセサリー」

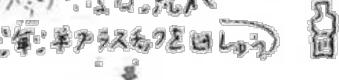


海のコエをせんい、生ナセ化
して作るリサイクせんい
↓



— ፳፻፲፭ ዓ.ም. ከፃ፻፲፭ ዓ.ም.

第二回 江流河上一派風流，王國公家裏一派豪傑



卷之三



卷之三

